

横浜市立病院等安全管理者会議 看護部会

幹事

昭和大学藤が丘病院：戸田 桂子

横浜南共済病院：滝口 由紀子

看護部会の特徴

- 看護部会：13病院
- 参加者：医療安全管理者として活動
- 看護業務のみならず、院内全体の課題等について相談や検討を行っている
- 疑問が生じたら、メールを活用し、各病院の取り組み状況など情報交換を行い、自部署の改善につなげている

H26年度の活動

第1回看護部会開催

- H26年7月25日 横浜南共済病院にて開催

- 検討事項

- ① 身体抑制時の観察項目・器具について
- ② 危険ドラッグ使用患者の対応について
- ③ H27年10月から施行される医療事故調査制度についての準備状況
- ④ 同意書のフォーマット規定について
- ⑤ コミュニケーションエラー防止対策
- ⑥ 院内見学

など

会議内容

1. 身体抑制について

- 患者の観察記録をどのように行っているか、身体抑制の継続・解除について医師は毎日検討しているか、全てにおいて記録が重要
- 各病院で、テンプレートや決まった記録用紙を使用し取り組んでいる

2. 危険ドラッグ使用患者の対応について

- 突然の対応に現場が混乱しないようフロー図など作成し、統一した対応ができるような取り組みが必要
- 相談窓口を決めておく

3. コミュニケーションエラー防止対策

- SBAR、チームステップスの職員教育を行っている
- 医療メディエーターの学習、導入

4. 医療事故調査制度について

- 情報収集段階
- 死亡時画像診断（Ai）の準備 など

H26年度の活動

第2回看護部会開催

- H27年1月29日 昭和大学藤が丘病院にて開催

- 検討事項

- ① 医療事故調査制度について
- ② チューブ抜去対策について
- ③ 患者相談窓口における体制、運用について

など

会議内容

1. 医療事故調査制度について
 - 平成27年10月から施行されるため、各病院どのように取り組んでいるか確認
 - 現状の事故調査委員会のあり方について情報交換
 - 今後、情報交換を行いながら、対応について病院差が生じないように取り組んでいきたい
 - 関連して、異状死、A i、説明同意文書などのマニュアル整備が必要
 - 事故調査で、R C Aなど分析手法が必要になるため、コアメンバーの学習が必要

2. チューブ抜去対策について

- ルート・チューブ抜去対策アセスメント
チャートを使用しリスクに合った予防策を行っている
- 不要なルート・チューブがないか評価は必要
- 対策を講じても自己（事故）抜去が発生する可能性はあるため、抜去後の対応についてマニュアル化することが重要

例) 気管チューブ

- ① 抜去時は直ちにバックバルブマスクによる人工換気を行い、医師を待つ
- ② 再挿入の準備をする

メールによる情報共有

- メールで配信された内容
 - ① 入院案内・個人情報保護について
 - ② カリウム製剤の安全使用について
 - ③ 警察OB雇用状況について
 - ④ 胃瘻交換時期について
 - ⑤ 回収式自己血運用について
 - ⑥ 看護師が行う静脈注射について
 - ⑦ 水銀血圧計の管理について